

SJ

The Safety Japan
since 1971

Safety Report

セーフティルポ 子ども

小学校入学後、交通事故に遭わないよう
幼児に安全行動の基本を身につけてもらう

Honda は幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、安全行動の基本を身につけてもらうプログラムとして「あやとりい ひよこ」や「できるニャンと交通安全を学ぶ」を開発してきた。そして、教材や指導ノウハウを全国各地の交通安全指導者や四輪販売会社 (Honda Cars) に提供している。今回は Honda のプログラムを活用した幼児への交通安全教育の活動事例を 2 つ紹介する。



事例 1 できるニャンと交通安全を学ぶ

身体を動かし、映像を見ながら
安全行動を身につける

「できるニャンと交通安全を学ぶ」は「できるニャン」というオリジナルキャラクターを使って、歌や体操で子どもたちが楽しく学べるように工夫されたプログラムで、「①できるニャンとどうるのわたりかた」「②できるニャンたいそう」の 2 つで構成されている。①はアニメーションを活用し、道路上の危険を知ってもらうことを目的としている。映像は一時停止可能で、指導者が子どもに問いかけ、「道路のどこに危険があるか」考えてもらうことができる。②は「止まる」「観る」「待つ」という動作を習得することを目的とした体操。身体を動かしながら楽しく安全行動を身につけられ、交通安全教室の導入としての役割を果たす。

Honda Cars 埼玉 (本社: 埼玉県さいたま市) は地域への社会貢献活動の一環として、2 年前から「あやとりい ひよこ」(P2 参照) を使って、同社各店のスタッフが近隣にある幼稚園・保育園を訪問し、幼児への交通安全教育を展開している。今年は新たなプログラムとして「できるニャンと交通安全を学ぶ」を取り入れた。

1 月 10 日、Honda Cars 埼玉 見沼店のスタッフが大宮みぬま保育園を訪れ、園児 93 名を対象に交通安全教室を実施した。スタッフの一人が「できるニャン」のパペット (ぬいぐるみ) を持って、「わいはできるニャンやでー。今日はみんなと道路ではどこが危ないのか、いっしょに考えるニャー」というと園児から大きな歓声上がる。そして、プログラムの 1 つ「できるニャンたいそう」がスタート。前方のスクリーンに映し出される映像に合わせて、園児たちは身体を動かし、道路を渡る時の基本動作を確認した。



導入の「できるニャンたいそう」。映像の振付に合わせて全員で体操する



スタッフが「できるニャン」のパペットを持って話しかけると子どもたちは大喜び

映像を止めて、
子どもたちと対話できる

Contents

- P1 Safety Report セーフティルポ 子ども
- P3 Close Up クローズアップ Honda の活動
Safety Info インフォメーション①
- P4 Safety Report セーフティルポ 高齢者
Safety Info インフォメーション②
- P5 Close Up クローズアップ 交通安全センター
- P6 SJ Interview 早稲田大学教授 梅永雄二さん
- P7 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P8 危険予測トレーニング (KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

編集室: 本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL: 03(5412)1736
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
編集人: 中嶋英彦

※ご不明点がございましたら、下記までお問合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL: 03(5439)1191
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

体操が終わると、「できるニャンとどうるのわたりかた」を流す。女の子が幼稚園からお母さんと一緒に帰宅するというストーリー。途中、交差点の反対側から呼んでいる友だちに向かって女の子が走り出したところで、「できるニャン」が現れて、女の子を制止。スタッフがここで映像を止め、女の子を制止した理由を問いかけると、「クルマにひかれちゃうから」と声上がる。「どうなるか、見てみましょう」と、女の子に向かってクルマが走ってくる映像を流す。「では、どうやって渡れば良かったのかな?」と問いかけると、全員で「手を上げる!」と大きな声で答えた。「そうです。でも、手を上げる前にやってほしいことがあります。それは、きちんと止まることです」とスタッフがアドバイスする。

この後、映像の中で「できるニャン」が「道路を渡る前は止まる。右を観て、左を観て、もう一度右を観て、ク

ルマが来ていないことを確かめてから渡る」という正しい道路の渡り方を解説。最後に、もう一度「できるニャンたいそう」をして「止まる」「観る」「待つ」を復習した。

大宮みぬま保育園園長 櫻井奈津恵さんは「重要なポイントで映像を止めて、スタッフの方が子どもたちに問いかけ、答えを引き出そうとしていたのが印象的でした。子ども自身も交通安全教室に参加している気持ちになれたと思います」と感想を語った。「このような交通安全教室を毎年実施していただけることは、子どもたちが交通ルールを学びきっかけになり、たいへんありがたく感じています。地域の方々と交流できる数少ない機会なので、子どもたちも楽しみにしていました」。Honda Cars 埼玉 見沼店の赤木圭祐さんは「当店の周辺はお子さまが比較的多いエリアです。特に小さいお子さまを事故から守るための交通安全教育はたいへん重要なことだと思い、活動しています。『できるニャンと交通安全を学ぶ』

は体操で身体を動かすなど参加体験型になっていて、子どもの目線でつくられたプログラムだと感じました。『できるニャン』というキャラクターも興味を引きつける上で重



Honda Cars 埼玉 見沼店の皆さん（前列中央が赤木圭祐さん）

要な役割を果たしています。交通安全教室は私たちにとっても有意義な時間なので、今後も続けていきたいと考えています」という。



スタッフが「止まる」「観る」「待つ」の大切さを繰り返し伝えた



大宮みぬま保育園園長 櫻井奈津恵さん

事例2 あやとりい ひよこ

交通場面のイラストを使って 道路の正しい歩き方を伝える

「あやとりい ひよこ（以下、あやとりい）」は大型のワークシートに描かれた交通場面のイラストとキャラクターを使い、道路の正しい歩き方を子どもたちに示してもらうなど、参加しながら楽しく学べる内容となっている。高知県高知市では同市の交通安全教育指導員（以下、指導員）が100カ所の幼稚園・保育園で交通安全教室を実施している。指導員の有澤陽子さんは「年1回実施する通常の交通安全教室に加え、小学校入学を控える年長クラスに限定した指導を希望される保育園や幼稚園が年々増えています。年長クラスを対象にした交通安全教室で『あやとりい』を活用しています」と話す。

1月22日は南街保育園で交通安全教室が開催され、年長クラスの園児12名が参加。はじめに、指導員が「今、保育園に来る時も帰る時もおうちの人と一緒にです。でも、小学生になったら、一人で歩いて行かないといけません。交通事故に遭わないように、交通ルールを勉強しましょう！」と、この日の目的を説明する。

導入は「あやとりい」の音当てクイズ。指導員が街に人やクルマが行き交う様子が描かれたワークシートを園児に見せ、CDから様々な音を流していく。何の音がわかった園児は元気よく手を上げて、指名された園児が街のイラストのどこに描かれているか指し示す。トラックがバックする時の音では、「トラックの運転席の人から、身体の小さいみんなが見えない時があります。この音を聞いたら、トラックに近づかないようにしてください」と補足した。

自分で考えて歩く力を 身につけてもらえる

音当てクイズが終わると、「歩道が設けられている道路」「車道に路側帯が表示されている道路」「歩道と車道の区別がない道路」が描かれた3種類のワークシートを使い、各場面どこを歩けばいいか、園児に質問していく。指導員は指名した園児に男の子（女の子）のイラストを渡し、ここを歩けばいいと思う場所に貼ってもらう。

「車道に路側帯が表示されている道路」の場面では、駐車車両や電柱、ゴミの集積場所を避けるため、路側帯の外に出なければいけない時があることを説明。手づくりのイラストを使って「白い線を出る前に必ず止まって、前や後ろからクルマなどが来ていないことを確かめてください」と指導員はアドバイスした。続いて、「信号機のある交差点」が描かれたワークシートを使い、歩行者用信号機が青、青点滅、赤の時にどのように行動すれば安全かを伝えた。

この後はオリジナルのクイズコーナー。「信号が赤から青になったら、すぐに渡っていいか」「道路を渡ろうとした時に信号が青点滅になったら、走って渡っていいか」といったクイズを出題し、園児が○か×の札を上げて解答する。この日の交通安全教室で学んだことの復習を目的

としている。最後に「おうちの人に『小学校まで歩く練習を一緒にして』と声をかけて、入学式までにおうちの人と練習しましょう。その時に今日のことを思い出してください」と指導員が園児に呼びかけ、交通安全教室は終了した。有澤さんは年長クラスの交通安全教室に「あやとりい」を活用している理由を次のように説明する。「ワークシートには登下校で出会う交通場面が網羅されています。交通場面のイラストもシンプルなのでわかりやすい。『この道はこのパターンだから、どこが危険で、どこが安全か』自分で考えて歩く力を、子どもたちに身につけてもらえると考えています」。

南街保育園園長 堺真由美さんは「毎年、小学校入学前に



「あやとりい」の音当てクイズでは答えがわかった園児が前に出て、街のイラストのどこに描かれているか指し示す

年長クラスだけの交通安全教室を実施しています。『あやとりい』は音とイラストを使って、耳と目の両方からわかりやすく学べるプログラムだと感じました。子どもたち全員が前に出て、きちんと答えていたのは驚きました。正解を答えて指導員の方からほめてもらえるのは、子どもにとってうれしいはず。それが記憶に残り、ここで学んだことを自分のものにできると思います」と話す。

警察庁の資料によれば、小学生の歩行中の交通事故死者数は小学1年生が最も多い（平成25～29年の累計）。今回紹介した事例のように、小学校入学前に子どもが一人で安全に行動できるようにするための教育が重要だといえる。



道路のどこを歩けばいいか、ワークシートにイラストを貼って答えてもらう



駐車車両が止まっている時は前後からクルマが来ていないことを確かめて通り過ぎよう指導



路側帯に電柱があったり、ゴミが置いてある場合も手づくりのイラストを使って再現し、より実態に合った場面設定で指導



オリジナルのクイズコーナーでは園児が答えやすいように○か×の札を上げてもらう



南街保育園園長 堺真由美さん



写真左から、高知市交通安全教育指導員の石本美穂さん、千光士有紀さん、田村麻貴さん、有澤陽子さん